

第3学年総合的な学習の時間「しもあか大根研究所」

対象：第3学年1組29名

1 単元名「しもあか大根研究所」

2 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
種から大根を育てることを通して大根の栽培方法を知るとともに、様々な調理法による大根との「格別な味」との出会いによって野菜は望ましい食生活に欠くことのできないものであることが分かる。	大根について知りたいことを決め、テーマにそって調べ、自分に合った方法でまとめ、表現する。	疑問に思ったことやくわしく知りたいことについて積極的に調べたり聞いたりして、大根を育てたり食べたりすることに関心をもって取り組もうとする。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 大根の手入れの方法を理解し、適切に育てることができる。 - 大根には様々な調理の仕方が分かる。 - 大根をはじめとする多くの野菜には自分たちが成長するために、必要な栄養があることが分かる。	- 自分の思いを伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、考えを深めることができる。 - 一人一台端末を活用して成長過程を記録し、観察から気付いたことを文章化してまとめている。 - 収穫して食べることの喜びを感じ、表現することができる。	- 体験活動等を通して、自分が学びたい課題を見付けようとする。 - 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 - 学んだことを次の学年に伝えようとしている。

4 食育の視点

食事の重要性 大根を育てて食べる体験を通し、野菜のもつ食材としての魅力や栄養にふれ、進んで野菜を食べようとする心情を育てる。

5 単元について

本単元では、板橋区の特産物である「大根」を通して、自分たちの住んでいるふるさと「板橋区」のよさや大根のもつ食材としての魅力に気付き、その気付きを自分自身の身の周りの人たちに伝え、広げていくことで、日々の生活や未来について考えられることを目指した学習である。

板橋区・練馬区は、かつて大根の大きな産地のひとつであったが、現在も板橋区の野菜の生産量で最も多いのは大根である。子供たちは、社会科の学習で「板橋区の農業の仕事」について生産者の工夫や

苦勞について学習してきた。また、大根は家庭や給食で日常的に食べられている野菜であり、子供たちにとってすぐに手に取ることのできる身近な野菜の一つである。

本単元では、大根を自分たちの手で実際に栽培し、食する体験を通し、大根の生産から消費までを自分のテーマに沿って探求していく。身近な大根を改めて探求することで、大根のもつ食材としての魅力や、生産者、調理してくれる人の労働に気付き、普段何気なく口にしている大根を「食べてみたい」「食べてみよう」というすすんで野菜を食べることの意欲につなげたい。

6 児童の実態

9月に行った食に関するアンケートでは、「食べることは大切だ」と答えた児童は100%であった。野菜が苦手とする児童はいるものの、本学級の残菜率は2.38%（9月分）と低い方である。また、「大根が好き」と答えた児童は90%、「どちらでもない」が5%、「嫌い」が5%で、「どちらでもない、嫌い」と答えた児童に理由を問うと、美味しくない、味がしない、苦いといった回答であった。さらに、どのような大根料理が好きかを問うと、味噌汁やおでんと回答する児童が多くいた。そして、家庭で食事を作る際に何を意識しているのか保護者へ調査をしたところ、栄養バランスが40%を占め、好きな味付けや旬の野菜と回答する児童も多くいた。

これまで自分の植木鉢でミニトマトを育てたり、花壇でピーマンやナスを育ててきたりした経験があり、野菜作りの楽しさはすでに実感していると思われるが、大根作りでは土を耕すところから収穫までの間引きや土寄せなどの課程も自分たちで行っていく。日に日に成長していく大根の姿から、美味しい立派な大根を育てるためにどのようにしたらよいか、また大根は根だけでなく葉や皮まで美味しく食べられる方法を知ることによって、自分が出会ったことのない大根料理に触れ、美味しさに出会うことによって、食に対する関心を向上させていきたい。

7 目指す児童像

「すすんでよりよい食生活を目指す子」

期待される児童の姿	本時の具体的な手だて
自分たちの育てている大根の収穫を楽しみに待つ姿やこれも大根の仲間なの？との疑問をもつ姿	葉のついた大根や青首大根以外の京野菜、練馬大根の実物を提示する。
料理に挑戦したい、家の人に作ってもらいたいと考えながら、食べることへの興味・関心を高める姿	間引き菜や大根の葉を使った料理動画を提示し、葉の部分も美味しく食べられることを伝える。
食べるまでに様々な人が関わっていることを実感し、自分の生活に欠かせない存在であることを理解する姿	スーパーマーケット見学時の様子や給食室の様子がわかる写真を提示する。

8 単元計画（全25時間）

		時間	主な活動内容
--	--	----	--------

1 次	課題の設定	1	種の観察 ・ 耐病総太り大根 ・ 練馬大根 ・ 赤丸大根
		2	畑の雑草抜き (土を耕す) (肥料をまく)
		3・4	うね作り 耐病総太り大根種まき JA 鈴木さん田村さん GT
		5	耐病総太り大根 発芽の観察
		6	赤丸大根種まき プランター作り (牛乳パックをプランター代わりにする。)
	情報収集	7	耐病総太り大根の育て方について調べる。 収穫までの計画を立てる。 カレンダー作り 天気・気温・観察
		8	赤丸大根 発芽の観察 赤丸大根の育て方について調べる。
		9	「みの早生大根」「練馬大根」「赤丸大根」はどんな大根なのか。 ⇒調べる (本・インターネットなど)
	整理・分析	10	耐病総太り大根を観察し、成育状況をオクリンクにまとめる。
2 次	課題の設定	11 (本時)	これまでの大根の成長をふり振り返りながら、大根について疑問に思ったことを考え調べたい内容を決定する。
		12・13	耐病総太り大根 間引き・土寄せ 間引き菜観察
		14・15	疑問に思った内容を調べ、オクリンクにまとめる。

	情報収集	1 6	GT 山口さん みの早生大根の歴史 区や JA の取組、食の大切さ、大根の抜き方のポイント、板橋農業まつりについて
		1 7	給食室で調理している様子や作り手、栄養士の思いなどを知る。 栄養士増田先生や調理員の方へインタビュー
		1 8	赤丸大根収穫観察 ※土曜授業 ⇒持ち帰り (家庭で調理)
		1 9 ・ 2 0	耐病総太り大根 収穫・洗う・観察 ⇒給食室へ届ける (外から給食室へ)
		2 1	郷土資料館 細樫さん GT 板橋区の農業の昔と今
3 次	発表まとめ	2 2 ・ 2 3	発表の準備 ポスターセッション
		2 4	リハーサル
		2 5	2 年生に発表 学習のふり返し 学習全体で学んだことをふり返し、自分の生活につなげる。

9 本時の指導（25時間扱いの11時間目）

（1）ねらい

大根は捨てるところがないことを知り、大根について調べたい研究テーマを決める。

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆期待する児童の姿 評価【評価方法】
導入 18分	○大きく成長した葉付き大根と、間引いた大根を見る。 ○葉を切り落とす実演を見る。（葉を捨てるふりをする） ・大きな大根だあ。 ・葉を捨てたらもったいない。 ○大根の葉を調理して食べている動画を視聴する。 ・美味しいそうに食べているなあ。 ・葉っぱは食べたことないなあ。 ○調べてみたいことや知りたいことを書き出して何をテーマに研究していくか考える時間であることを理解する。	○実物を提示し、大根の根と葉の部分に分けて切り落とす。どの部分を食べたいか児童に問い、葉を捨てるふりをする。 ○動画を通して、葉も皮も食べられることを知り、大根への興味を高めさせる。 ○教員が料理をしているところや食べているところを見せ、おいしく食べられる料理方法に関心をもたせる。 ☆願うだけでは育たないことを感じさせ、そのためには育てるための様々な知識が必要であることに気付く姿
大根についてもっと知りたいことや調べたいことを書き出し、自分の研究テーマを決めよう。		

展 開 1 7 分	○疑問や知りたいことを書き出す。 ・大根は何種類あるのか ・おいしい大根の見分け方は何か ・栄養はあるのか ・他にどんな料理方法があるのか。 ○書き出した内容を、近くの友達と共有する。 ○研究テーマを1つ設定し、用紙に記入する。 ○同じテーマの友達を見つける。	○疑問や知りたいことをワークシートに自由に書かせる。 主①：自分の疑問を書き出し、課題を設定することができる。【ワークシート】 ○理由を加えて、書き出した内容を伝えるようにする。 思判表①：自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、考えを深めることができる。【観察】 ○数人にテーマを聞き、自分がどの友達と同じになるのか名前のマグネットを黒板に貼る。 ○研究テーマが1人や2人になったところは、他のテーマと合わせられないか考えさせる。 ○ワークシートに同じテーマをもった友達の名前を記入させる。
ま と め 10 分	○本時のふり返しをする。 ・テーマを決めることができた ・自分の考えを友達に伝えることができた ・友達の考えをしっかりと聞くことができた ・感想	□ワークシートに記入後、感想を発表し合う。 □今後の予定⇒間引く活動と自分の研究テーマに沿って調べていくことを予告して終わる。

8 成果と課題

成果

○土作りから行うことで、自分たちの手で育てることへの意識と興味を高めることができた。

○大根は捨てる場所がないということに注目させ、食品ロスへの意識を高めることができた。

○収穫した大根を全校で食べ、味わった。美味しさを感じるだけでなく、食べてもらうことの嬉しさも感じ、達成感を得ることができた。

課題

▲本やインターネットを活用して調べ学習をすすめたが、最終的にはインターネットから情報を得る児童が多かった。⇒検索結果が様々で、どの情報が正しいのか判断することが児童にとって難しかった。

た。

▲タブレットを使って、大根の成長記録をまとめる際、ローマ字入力できる児童とそうでない児童が2極化し、まとめ方に個人差が出た。⇒国語でローマ字を学習する機会があるが、その学習を前倒しして行っておくとよかった。

▲本時で、何を目的にテーマを考えさせたかったのか、伝わり方が不十分であった。⇒板書を活用し、児童からの意見を取り上げたりしながら、流れのわかる板書が必要であった。

9 講師の先生から

○児童が「食べたい」と思うことが一番であるが、「知りたい!」はどうだったか。問いの設定に工夫が必要である。

○「食育」＝「食べる活動」とはいいいきれない。食べなくてもできる食育、お金がなくてもできる食育など、様々な方法がある。

○教職員が出演している動画は、児童の関心をひき有効的であった。「食べたい!」という意識が生まれた。5品作っていること、葉だけでなく皮も使っていること、包丁で切り方を変えていることなど、動画から様々な情報を得ることができる。

○大根を扱った書籍の紹介「きつね森の山男」「ダイコンはえらい」

金先生の実践⇒食育に関わる本を給食時に児童に紹介

○オクリンクを使って、成長記録をまとめ蓄積していったものを掲示していることで、友達の考えを学ぶ場となっていてよい。